

三重の力を世界へ 世界から三重へ 未来を拓く地域共創大学

新興感染症、気候変動、食糧・エネルギー危機、国際紛争など、世界は様々な問題、課題に直面しています。我が国においては、急速な少子高齢化による人口減少に起因する地域の活力低下が、環境問題と共に大きな社会問題になっています。このように凄まじいスピードで社会が変化するなか、様々な問題・課題を乗り越え、豊かで幸せな新しい社会を拓いていくには、すべての人びととあらゆる組織がより良い社会の構築に向けて共創して行くことが求められます。知の拠点である大学は、その核の一つとして重要な責任を担っており、大学への期待はますます大きくなってきています。

このような状況下、三重大学は従来の大学運営と教育研究組織を根本的に見直し、今後の活動目標となる「三重大学ビジョン2030」を策定しました。本ビジョンは、令和4年（2022年）から令和12年（2030年）までを見据え、教育・研究・社会貢献・医療の各領域で、何を目標にして、それをどのように達成していくのかを示し、教職員がワンチームとなって大学改革に取り組む拠りどころとして取りまとめたものです。

三重大学にとって最も大切な基本理念は、国際社会との繋がりを深め、地域社会との連携を強化しながら、様々な地域・分野で活躍できる人材育成と、世界トップレベル及び独創的な研究を遂行することです。地域社会との共創の場として、また、地域創生のハブ機能を持つ高等教育機関として発展して行くことが重要になります。大学が有する「知」、「スキル」、「多様な繋がり」、「地域との価値共有」をもとに、ダイバーシティを尊重した教職員が一体となって力を最大限発揮することによって、大規模大学とは異なる、特色ある大学へと成長

を遂げ、地域社会を発展させる原動力になることを目指します。

教育においては、従来から重点を置いてきた「感じる力」「考える力」「コミュニケーション力」に「行動する力」を加えた、総合的な「生きる力」を修得することによって、地域や世界の諸課題を発見・解決する人材を育成します。さらに、環境・SDGsや防災・減災に関するリテラシーをはじめ、DX（デジタルトランスフォーメーション）、AIの活用や数理データサイエンスなど、文理横断的に活動し続ける人材を、行政や企業、住民の皆さんにご協力頂きながら育成したいと考えています。

研究では、世界と伍するナンバーワン研究、地域に根差したオンリーワン研究を中心に、カーボンニュートラルへの転換を図るなど、地域イノベーションに繋がる研究を展開し、それらの成果を社会実装することで、地域共創、新しい地域づくりを先導する役割を担っていきます。

医療においては、三重県内の最後の砦として、三重大学医学部附属病院が高度な専門医療を展開すると共に、地域が必要とする医師、看護師などの医療人の育成にも努めます。また、今後特にその整備と活用が必要とされる医療DXを推進して行くことで、全国的に見ても先駆的なDX医療人材の育成と地域医療のスマート化を進めます。

このように、三重大学は、世界と繋がる地域共創活動に真摯に取り組み、未来を拓く教育研究拠点として世界が注目する地域共創大学を目指します。